平成 29 年度　第4回消防力強化のための勉強会の概要

日　時：平成29年9月27日（水）　午後3時25分～6時10分
場　所：大阪府庁災害対策本部会議室

≪主な意見（順不同）≫

（○消防本部・市町村の発言、●座長の発言、→事務局の応答）

◆広域化について

○　資料 1-2 の P4・5・6 の泉大津市の職員数が 142 名となっているが、85 名の間違いであるため修正してほしい。また、P16 の泉州北ブロックの職員定数と実数についても修正をお願いしたい。救急車等の台数も違っているように思う。

→　修正する。（※第4回勉強会での指摘を踏まえ、資料を修正済み）

●　数字が変われば前提がかわるので、他のところも含めてきちんと精査してほしい。

○　本年6月20日の副首都推進本部会議では、大阪の消防力は、火災では 1 件あたりの焼損面積や損害額や死傷者の数等では東京には及ばないが、都道府県ではトップクラスにあるという分析結果が出ている。また、もともとこの勉強会での課題は「府内の消防力のバラツキ」ということであったが、バラツキをどう解消するかが、消防力強化の目的であると思う。境界をなくすことで統合する部分はあるかもしれないが、署所の統廃合の話が主になっている。今後の方向性としてそれで良いのか。この調査をどう活かしていこうとしているのか。

→　基本哲学は、現場力を如何にあげていくかを主眼に、昨年度もまとめさせていただいた。今年度の取りまとめもそのスタンスである。ただ、議論・検討の過程として、運用効果や署所の統廃合によって、違う形、どんな形で消防力強化ができるかを検討している。最終形のアウトプットは、広域化することによって、現場力がどう充実強化されるか、府民の安全安心な暮らしをどう実現させるかということであり、スタンスに変わりはない。

○　広域化によって、各本部でどれだけの職員数が生み出されるかをみてもらうことは、バラツキを見る上では大事なことであるが、生み出される職員数が出ないとメリットが見えてこない。最終形のまとめでは、その部分を考えてくれるのかと思っている。

→　ストックを組み替えて、どのように現場体制を強化するか。小規模本部では持ち得ない高度資機材をどう強化させ、有事の際の災害対応能力を向上させることが課題である。

●　この勉強会は、今後の大阪の消防力の強化に向けた方策等について検討するために始めたものであり、考え方に変わりはない。今は、消防防災科学センターから判断するためのデータを出してもらっているところである。最終的にどのレベルを目指すのかは、また相談させていただく。

◆水平連携について

○　特殊救助災害に対する新たな部隊の創設について、「取組の効果」には、「迅速出場」の記載しかないが、効果には「質の向上」もある。スピードと質の向上の両面で提案したものである。

部隊の運用の対象は、大きなイベントやプロジェクトで人が集まる時だけが対象と見えてしまう。

尼崎市で発生したJR福知山線の脱線事故や府内の公園でサリンが撒かれたとか、原発の研究所で問題が起きた時なども対象とすべき。

● 水平連携については、大阪の消防力を強化するために、実務をされている消防の皆さんのご意見を聞き、消防力強化に寄与できる8つの項目をあげさせていただいた。予算や周辺状況などにより、できないことがあるかもしれないが、府として、今後、進めていきたいというものをあげた。

◆その他

○ 新聞報道では、機動救助部隊は近々やることと断定して書かれており、困惑している。

→ 新聞報道の書き方は正確でない。進め方については、今まで勉強会で議論してきたとおり何ら変更するつもりはない。実際には消防の皆さんに動いてもらうことになる。できないものであれば意味がないので、この勉強会でご意見をいただいている。いただいた意見を集約し、大阪府として府下消防長会に相談することが必要だと思っている。進め方については今後相談させていただきたい。

● この勉強会にご出席いただいている消防長、危機管理のみなさんには、それぞれの立場があるのは理解しているし、感謝もしている。消防力強化のための水平連携は重要であり、本当にできることを1つでもいいから早くできたらいいと思っている。